

神戸港湾事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども神戸港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、神戸港、姫路港等の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。

藻場・干潟再生の取組

令和2年、兵庫運河に港湾工事で発生した石や砂を有効活用して干潟を造成しました。豊かな海の再生に取り組む漁業者、研究者と連携し、地元小学校の環境学習の場として活用しています。
現在、地元の親子に呼びかけ、天然アサリの育成調査を行うとともに、アマモ・魚類の生息分布調査や干潟機能の調査を行っています。
これからも神戸港における護岸整備などを通じて、藻場や干潟の再生技術の向上に努めていきます。 【目標】 2022年度1ヶ所→2024年度2ヶ所



干潟全景(R2.11月)

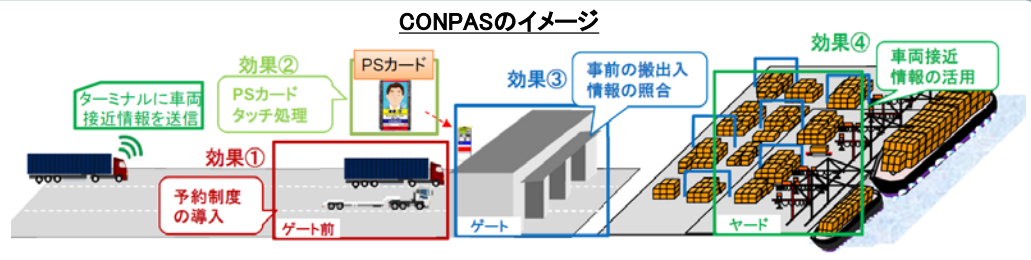


アサリ育成調査(R4.5月)

COMPASによるコンテナターミナル効率化の取組

コンテナ船の大型化に起因するコンテナ積卸個数の増加により、コンテナターミナルのゲート前の混雑が深刻化しています。
これを踏まえ国土交通省において、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を目的にCOMPAS※を開発しました。神戸港では本格運用に向けた試験運用を実施しています。

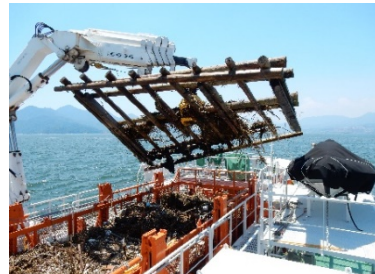
※Container Fast Pass:ゲート処理等の効率化やセキュリティの向上を目的としたシステム



COMPASのイメージ

海洋環境の整備

昭和49年から、美しい海を守るため海面清掃と油回収業務を行っています。現在は大阪湾と播磨灘を対象に「Dr.海洋」、「クリーンはりま」の2隻の海面清掃船兼油回収船が従事しています。
西日本豪雨災害時の流木等の海上漂流物の回収支援、東京湾での軽石漂流対策支援など、大規模災害時などで緊急出動しています。
また、大阪湾再生行動計画等のための基礎データを取得する水質調査を行っています。



西日本豪雨災害時の漂流物回収 (H30.7)

出前講座・見学会・資料館の取組

港のことや防災について知っていただく、「出前講座」や「みなと見学会」を随時受け付けています。最近では、小学校の児童への講座(web形式)が増えています。
事務所の隣にはパネルや映像、模型などで、神戸港の歴史や役割を楽しく学べる神戸築港資料館「ピアしっくす」を開設しています。(入館無料ですが事前にご連絡ください。)



市立東灘小学校での出前講座(R3.7)

【目標】 実施を継続